

論 文 要 旨

博士課程 ①・乙	第 号	氏 名	大橋 昌尚
<p>[論文題名]</p> <p>Prospective study of the MD-twin score for antepartum evaluation of monochorionic diamniotic twins and its correlation with perinatal outcomes</p> <p>[要 旨]</p> <p>【目的】一絨毛膜二羊膜性 (MD) 双胎の周産期予後は、単胎妊娠や二絨毛膜二羊膜性双胎と比較して不良である。MD 双胎の予後を改善するためには、MD 双胎特有の胎児評価法が必要である。そこで我々は、新たな MD 双胎の評価法である MD-twin score を開発し、その有効性を後方視的に証明した。今回、MD twin score を用いて前方視的に MD 双胎の妊娠管理を行い、その有用性を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】MD-twin score は、両児の体重差 (25%以上)、羊水量差、臍帯付着異常、胎児水腫および胎児心拍数モニタリングの5項目を評価し、各項目に異常を認めた場合を1点とし、これらの合計とした。対象は1997年から2009年まで宮崎大学医学部附属病院で妊娠分娩管理を行ったMD双胎112組である。全症例をMD-twin score を用いて前方視的に管理し、在胎26週以降にスコア3点を見娩出の基準とした。主要転帰は在胎26週以降の胎児死亡、2歳までの死亡および神経学的予後不良 (脳性麻痺、精神遅滞またはてんかん) とした。除外項目は奇形、妊娠26週以前の流産、妊娠26週以前のスコア3点および双胎間輸血症候群 (以下 TTTS) とした。本研究に関して宮崎大学倫理委員会に申請を行い、承認を得た。</p> <p>【結果】研究期間中に112組のMD twin を管理した。この内、流産3組および奇形2組、妊娠16週から26週未満のTTTS13組、妊娠26週以前にスコア3点(1組は妊娠22週で分娩)の4組を除く90組にMD-twin score を適用した。スコア3点は11組、スコア2点以下は79組あった。予後不良例は、3点群で4組 (36.4%)に認めたが、2点以下群では認めなかった。このように、前方視的検討でもMD-twin score3点を閾値とする評価法の有用性が示された。次に予後不良を示した4組4児の詳細は、1児は新生児循環不全による脳性麻痺であり、残り3児はいずれも3パーセントタイル未満の胎児発育不全児であった。</p> <p>スコア2点以下で3パーセントタイル未満の胎児発育不全児17児では予後不良例は認めなかったが、スコア3点で3パーセントタイル未満の胎児発育不全児6児のうち3児 (50%) に予後不良症例を認めた。3パーセントタイル未満の胎児発育不全で、スコア3点の場合には、統計学的に予後不良発症率が高いことが示された。(p= 0.011)</p> <p>【結論】前方視的にMD-twin score を適用した結果、スコア2点以下では、予後不良症例は認めず、その有効性が示された。スコア3点で予後不良を認めた3パーセントタイル未満の胎児発育不全児に対する管理方針に関しては、更なる検討が必要である。</p>			

備考 論文要旨は1, 000字程度にまとめるものとする。